

## 第4次安城市生涯学習推進計画 第4回策定委員会 議事概要

日 時：令和2年10月13日（火）午後1時30分から

場 所：へきしんギャラクシープラザ 講座室

### <委員出席者> 11名

【委員長】 近藤 金光（社会教育委員）  
【副委員長】 黒柳 厚子（社会教育委員）  
【委員】 三井 信子（社会教育委員） 小寺 陽子（社会教育委員）  
柳澤 義雄（社会教育委員） 早川 一雄（社会教育委員）  
塚原 和江（社会教育委員） 瀬戸井 明人（社会教育委員）  
小島 英樹（公募市民） 岩月 江美（公募市民）  
小森 義史（公募市民）

### <アドバイザー> 1名

益川 浩一（岐阜大学地域協学センター）

### <事務局等出席者> 6名

原田 敬章（生涯学習部 生涯学習課 課長）  
神谷 高典（生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係 係長）  
天野 真治（生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係 専門主査）  
鳥居 有香（生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係 主査）  
太田 菜月（生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係 主事）  
加藤 栄司（一般社団法人 地域問題研究所）

### <次第>

市民憲章唱和

#### 1. 議題

- (1) 作業部会の経過について
- (2) 第4次安城市生涯学習推進計画の検討・審議

#### 2. その他

### <配布資料>

- ・ 次第
- ・ 資料：策定委員会 意見シート
- ・ 資料1：第4次安城市生涯学習推進計画策定作業部会の実施概要
- ・ 資料2：第4次安城市生涯学習推進計画素案（序～第4章）

## <議事概要>

### 1. 議題

#### (1) 作業部会の経過について

《説明》地域問題研究所

：【資料1】第4次安城市生涯学習推進計画策定作業部会の実施概要

《協議》

#### 【委員】

- ・(資料1：7ページ) タイプ3のシニア世代に65歳以上の方は含まれるのでしょうか。

#### 【地域問題研究所】

- ・今回は65歳くらいまでの方をターゲットとしており、それ以上の方は対象としておりません。65歳以上の方は生涯学習に出る機会が多いのに対し、65歳までの方は生涯学習に触れる機会が少ないことが理由です。

#### 【事務局】

- ・他にご質問などはございませんでしょうか。  
(委員から質問等なし)

#### 【委員長】

- ・作業部会の経過についてはご了承いただけますでしょうか。  
(委員から異議等なし)

#### (2) 第4次安城市生涯学習推進計画の検討・審議

《説明》事務局

：【資料】策定委員会 意見シート

：【資料2】第4次安城市生涯学習推進計画素案(序～第4章)

：第4次安城市生涯学習推進計画素案(前回配付の資料)

《協議》

#### 【委員】

- ・意見シートについて、事前に出した意見に対してまとめていただき、ありがたいと思います。また、「×」の意見に対してもきちっと説明されており、納得しております。
- ・(資料2：第3章) 意見として、すっきりさせて欲しいと申し上げましたが、整理されてすっきりしており、見やすくなっています。
- ・(資料2：49ページ) 前回、何を重点的に取り組むのですかと質問させていただきましたが、重点的に取り組む施策・事業として、ここに加えていただき、分かりやすくなったと思います。
- ・先回の素案より分かりやすくなったと思います。

#### 【委員長】

- ・(資料2：39ページ)「町内公民館での芸能活動発表会などを開催しています」とあり、また、(資料2：40ページ「主要施策・事業」2-(1)-3)「公民館まつ

り、芸能まつり、町内公民館芸能活動発表会など」とありますが、38年間やってきた芸能活動発表会は、昨年で終わりました。今年からは新しい活動を模索していますが、このような形になったのは、現在、20団体を切る状況の中で税金を投入することに問題があるため、「芸能活動」は削除しなければなりません。

#### 【事務局】

- ・39ページの11行目「町内公民館での芸能活動発表会」については、削除させていただきます。

#### 【委員】

- ・(資料2:4ページ～)生涯学習は、生涯学習課の生涯学習ではなく、安城市民の生涯学習であり、市民がいろいろな活動を行っていますが、その活動に生涯学習課としてどのような支援をしていくのかといった視点が欲しい。生涯学習を幅広く見た上で、生涯学習課がどのような活動をするかを考えれば、適切な予算の執行ができるのではないのでしょうか。この内容は私が考える安城市の生涯学習とは違います。全体像を掴んだ上で、生涯学習課は何をするのかといった捉え方をして欲しい。
- ・(資料2:31ページ)計画の指標については、よく分かりません。「(1)生涯学習に対する満足度」では、令和元年度62.6%となっていますが、何を基準にしてこの数値が出てきたのでしょうか。第3次の計画を基準にしているのであれば、毎年数値がなければいけないのではないかと。「(2)生涯学習講座・教室の受講者数」についても、目標値を7,500人(15,000人※コロナ過による受講者を反映した数値)とありますが、何を根拠に15,000人としているのでしょうか。理由付けが書いてありません。例えば、市内にシニア世代が何人いて、その中で何人が受講するのかといったことを把握した上で数値を出すのであれば分かるが、いきなり数値を出されても分からない。「(3)1年間に新たに活動を始めた自主グループ数」についても、増えた数、減った数から現在どれだけのグループ数であるから、将来、どれだけのグループ数になるかということ予想して数値を出して欲しい。
- ・現状値は毎年数値を示して欲しい。また、第4次に入ってからはその報告を毎年やって欲しい。資料だけの報告では分かりにくいので、市民を募って毎年、会議を開いて報告して欲しい。
- ・(資料2:40ページ)2-(1)-2「自主グループの組織化」、2-(1)-3「自主グループの活動発表の場の提供」について、既存の自主グループ、生涯学習課の講座から生まれた自主グループなど、たくさんある自主グループに対し、如何に支援して育てていくべきかを(意見シート)61、62、63に、具体的に書きました。61番では、拡大コピーで掲示したいといった声があることを、62番では行事の案内を電子掲示板で表示したほうがよいということ、63番では、去年、83講座が開かれましたが、もし、20人参加していたら1,600人にもなるので、受講した人の中には取り組んでみようか、もっと調べてみようかといった人が出るのではないかとということで、そういった人たちを支援するにはどういったことがあるかについて書きました。自主グループが活動できるように考えていただきたい。
- ・(資料2:43ページ)「あんでな」について、年4回なので見落としたり3か月待たなくてはなりません。回数が少なくないのでしょうか。年度当初のお知らせはどの

ようにされているのでしょうか。

#### 【事務局】

- ・ 2 ページ「計画の位置づけと期間」のところに計画の位置づけが記してありますが、最上位の安城市総合計画があり、その個別分野である教育大綱があり、そのもとでの個別計画となっています。その個別計画に関しては、図書のことだとかスポーツのこと、今年度は文化振興のことなどの計画が策定されていますので、これらの計画とは役割分担を十分にした上での計画となっております。委員のご意見のように全てを網羅するといった考え方もございますが、個別に分かりやすくするため、安城市の生涯学習の部分に特化したものを記載させていただきました。
- ・ 31 ページ「計画の指標」につきましては、3 ページ「計画の期間」で安城市の総合計画が令和5年度まで続いています。この中で、数値目標として生涯学習分野の指標が2点あります。ひとつは「生涯学習に対する満足度」、もうひとつは「生涯学習講座」の受講数となっています。上位計画のほうにこの数値目標がございますので、基本的にこの2つの数値目標を用いております。
- ・ どんなものを使って「生涯学習に対する満足度」を見ているかと申しますと、2年に1回行う市民アンケートの数値を使っております。また、生涯学習講座の受講者数に関しましても、令和5年の目標数値の14,800が上位計画の数値目標となっており、令和3年の数値は14,600となっております。上位計画である総合計画の数値から令和3年から令和5年までが200増となっていることから、令和7年を15,000とさせていただいております。数値目標が上位計画と異なることはよろしくないとの考えから、総合計画の数値をそのまま使わせていただいております。15,000の半分の7,500としていることに関しましても、コロナ禍で、部屋の定員数の半数程度で10月から受講を開始しており、来年もこの形を継続することから、この数値とさせていただいております。
- ・ 「1年間に新たに活動を始めた自主グループ数」に関しましては、公民館講座を受講された方からの自主グループを想定しております。公民館講座は自主グループに繋げるようなものを念頭に企画しております。グループ数については、各地区公民館で年間2グループとして、地区公民館が10で20グループ、加えて、文化センターと青少年の家で年間5グループを考えていますので、年間25グループとなります。
- ・ 「市民自ら企画・運営する講座数」に関しましては、市民企画講座が12講座、市民出前講座を8団体に増やしたいと考えておりますので、年間、20講座となります。
- ・ 現状値に関しましては、3次のものについては年別に数値を送らせていただいておりますが、年別の数値に関しましては考えさせていただきます。
- ・ 現状の確認の場については、50ページに記載させていただいておりますが、進捗報告、意見、評価を社会教育審議会で行わせていただきます。
- ・ 市民への提供については、議事録等の公開を検討させていただきたいと思っております。
- ・ 自主グループの支援に関しましては、現在、少し早く会議室に来ることができるなど、既に実施していることが自主グループへの支援と考えています。公民館で活動されていない自主グループに関しては、把握しておりませんので、公民館で活動されている自主グループの支援として、活動の場の確保といった意味合いで行わせて

いただいております。

- ・ご意見いただいた、活動発表会の拡大コピーの件などに関しては、地区公民館のほうにご依頼いただければ、その都度、考えさせていただきます。
- ・電光掲示板については、設置してあるところとないところがあり、全てを一緒には考えられないので、各地区公民館の担当者と相談しながらより良い公民館活動を考えさせていただきたいと思います。
- ・「あんてな」に関しましては、春、夏、秋、冬で年4回発行させていただいており、毎月より、3か月後の予定が分かるもののほうが良いといったご意見もいただいております。現状、年4回を変更する予定はありません。年度初めは、4月1日広報の折り込みで、A3版の概要版を予定しております。今年のスケジュールでは、4月、7月、9月、11月での発行を予定しております。春号が4月から6月頃開催のイベント、講座、夏号が7月から9月頃開催のイベント、講座、秋号が9月から11月、冬号が12月から3月と年間4回で情報提供をしております。
- ・自主グループの数については、現状、公民館で自主グループとして登録いただいている団体数が本年度4月の実績で、628グループございます。公民館により違いはありますが、少ないところでは40グループくらい、多いところでは80グループくらいとなっていますので、増える団体、減る団体がありますので、目標を年間25グループくらいにすると少しずつ増えると考えております。

#### 【委員】

- ・(資料2:31ページ)「生涯学習講座・教室の受講者数」で現状値が12,982人となっています。これは延べ人数だと思いますが、市全体で何パーセントの人が講座を受講すれば市としての満足値になるのですか。

#### 【事務局】

- ・この数値は延べ人数になりますが、お一人の方が複数の講座を受講する場合がありますので、現状、市の何パーセントの人が受講するといった数値目標は考えておりません。

#### 【委員】

- ・(旧素案:27ページ)「ネチズン」や「キャリア教育」などに説明書きがありますが、今回の素案では省かれています。事業計画の分析シートにあった「PDCA」もその時初めて知りましたが、これが市民全員に渡るとすれば、分からないという人もいると思います。説明書きがあってもよいのではないのでしょうか。

#### 【事務局】

- ・注釈につきましては、分からないという人が多いのであれば、小さな文字で下のほうに記載するという事もできますが、一度、検討をさせていただきます。

#### 【委員】

- ・注釈は敢えて入れなくてもよいと思います。文字が増え過ぎると読む気が無くなってしまいます。
- ・(資料2:29、30ページ)基本理念の「だれもが楽しく、つながり、人とまちの明日を創る学びあい」で、「つながる」とは何が繋がるのか分かりません。ここは「だれもが楽しく、人とつながり」としたほうが分かりやすくなります。また、「学びあい」の「あい」は平仮名でよいのでしょうか、「合い」のほうがよいと思います。

- ・(資料2:26ページ⑤)「場所や時間の制約を受けないオンラインも組み合わせた生涯学習」とありますが、敢えて、ここに「場所や時間の制約を受けないオンライン」は必要でしょうか。下に「ICTを活用した」とありますので、「ICTを活用した生涯学習」としたほうがよいと思います。
- ・(資料2:29、30ページ)表に番号が振ってありますが、これは順位制ですか。順位制でなければ、番号ではないほうがよいと思います。
- ・(資料2:29、30ページ)「1.多様なニーズに応じた学びの機会の提供」、「2.学びの成果を地域に活かすつながりづくり」、「3.市民の主体的な学びを支える環境づくり」とありますが、これも順位制なのでしょうか。もし、順位制であるなら、最初に「1.多様なニーズに応じた学びの機会の提供」が、2番目に「3.市民の主体的な学びを支える環境づくり」が、最後に「2.学びの成果を地域に活かすつながりづくり」とすべきではないでしょうか。

**【事務局】**

- ・いただきましたご意見は検討させていただきます。

**【委員】**

- ・(意見シート)55番と16番について、回答には定例会で報告しているとなっており、評価についても高齢者はBで、人材育成にはならなかったと判定されていますが、私は聞いておりません。

**【事務局】**

- ・各館の公民館指導員さんから説明をいただいております。昨年の公民館指導員定例会の中で、良かったもの3つを公民館指導員さんのほうから説明をいただいております。
- ・評価Bに関しましては、各老人クラブは各グループの括りで動かされてはいますが、その先の活動に繋がっていないと考えます。

**【委員】**

- ・成果、課題、評価について、その話は本当ですか。

**【事務局】**

- ・昨年の2回目の時にお話のほうをいただいております。各館で良かったものということをご報告をいただいておりますので、それを自己評価と考えております。

**【委員】**

- ・私としては、記憶にないのですが、このことについて実際に話し合われましたか、それとも報告だけですか。

**【事務局】**

- ・報告です。報告により自己評価は済んでいると考えております。

**【委員】**

- ・こういった事は皆さんと話し合ってもらった上で評価を決めてもらわなくてはいいけません。
- ・70歳、80歳の高齢者の方に地域の指導力を求める必要はないと思います。私が見る限り、指導力のある方が参加しておられるので、そういった方の評価がBだったということについては、公民館指導員の皆さんにご意見を求めて、その評価が正しかったかどうかを話し合ってもらわなくてはいいけません。大事な事は時間をかけ

て話し合わなければいけません。私としては、この評価は納得がいきません。また、このような評価をすること自体に疑問があります。

**【事務局】**

- ・この件につきましては、公民館の定例会でお話しをさせていただきたいと思います。

**【委員長】**

- ・時間も押しておりますので、議案はご了承いただけるということにさせていただきます。  
(委員から異議なし)

**【益川先生】**

- ・委員の方からたくさんのご意見もいただき、意見が反映される形となったことは良かったと思います。
- ・私がこれから申し上げることは、この計画にうまく取り込めるようであれば入れていただくといった観点で聴いていただければと思います。
- ・町内公民館についてのご意見について、成果の発表の機会は違う形でされると思います。削除ではなく敢えてそういった場をつくっていくといった記述は残すべきだと思いますので、計画のほうにもそういった形で反映できればと思います。
- ・用語の注釈について、文中に入ってくると煩わしいといったご意見がありましたが、一般の人に馴染みがない言葉については、計画の後ろの資料編に用語集といった形で付けることもできます。
- ・(資料2：29、30ページ) 基本理念や順位制なのかといったご意見については、市民の方々は、まず、こういった体系図を見て理解を深められると思いますので、基本理念は分かりやすいものをしていただけたらと思います。また、これらの図も関係性が分かるようなものにしていただけたらと思います。
- ・(資料2：4ページ)「安城市の生涯学習の特徴」について、ここに書かれている内容は安城市の生涯学習施策の内容となっています。この部分を市民の人がどんな生涯学習をやっている、それをどんな形で行政が支援してきたかといった内容にするなら、前半部分で市民の人がどんな生涯学習をやっているのか、そして、それを行政がどのように支援してきたかといったといった観点で特徴をまとめることとなります。あくまで市民が主役なので、2つの内容がミックスされるような形が良いと思います。
- ・(資料2：31ページ) 数値目標についてのご意見について、算定根拠は計画の中には書かないと思いますが、しっかりした算定根拠を明確に示すことができるようにしておくべきだと考えます。目標で現状維持というものが多いのですが、なぜ、現状維持なのかと問われると思いますので、根拠を明確にしておく必要があると思います。また、今、これだけの現状なので数値目標は現状維持といった説明はありえません。本来は、将来の姿、目標があって、そのためにこの計画、施策を推進することで、このような数値目標が出てくるといった説明が必要だと思います。こういった考え方はバックキャストと呼ばれていますが、本来はこのような手法で考えていくべきだと思いますので、こういった観点も持って欲しいと思います。
- ・自主グループ支援のご意見について、行政が全てお膳立てをしてやってもらうといった方向性ではなく、市民が自主的にやっている活動の中に公共性を認め、如何に

支援するかといった方向性もあると良いのではないのでしょうか。

- SDG sについて、アイコンも入れ、前面に押し出してきていますので、前段部分で、もう少しSDG sを目指すといったことを書いてもよいのではないかと思います。
- (資料2：2ページ)「計画の位置づけと期間」について、今回、他の計画、部署との棲み分けを考慮して計画をつくられたことから、いろいろな施策を外されています。(資料2：29、30ページ) 体系図の「3.市民の主体的な学びを支える環境づくり」の中に、例えば、「他機関や他部署と連携して進める」といった観点は入れられないかと思います。市民活動センターは入っていますが、図書館、文化、スポーツ、福祉、市民活動などの部署とは連携しないと、単体で進める生涯学習はないと思います。連携するということを環境整備、体制整備のところでは言えないかと思います。併せて、外部機関である学校、大学、NPO、自治体などとも一緒にやっていくということで、内部の連携、外部の連携をしながら生涯学習を推進していくといった視点が、環境整備、体制整備の中に入っていると良いと思います。

## (2) その他

《説明》事務局：次回の策定委員会について

以上